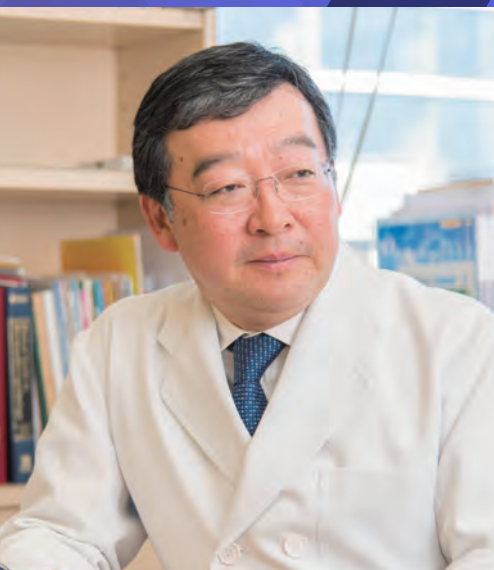


尾見徳弥

クイーンズスクエアメディカルセンター常務理事 /
日本医科大学客員教授

第36回

日本美容皮膚科学会
総会・学術大会開催にあたって

～会頭・尾見徳弥先生特別インタビュー～

第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会は「美容皮膚科のグローバルスタンダード」をテーマに、8月4日(土)、5日(日)の2日間、東京国際フォーラムにおいて開催される。今回の大会は、会頭の尾見徳弥先生の得意分野および豊富な海外人脈を生かし、オリジナリティに満ちたプログラム構成となっている。とくに、初日に予定されている世界最大の美容・アンチエイジング医療学会 IMCAS との共同セッションは、将来的な共同開催を見据えた試みとして注目されている。総会開催に向けた意気込みを尾見先生にお聞きした。

今回のテーマ「美容皮膚科のグローバルスタンダード」にはどのような気持ちが込められているのですか。

尾見 日本美容皮膚科学会は、現在、正会員数2,400名を超え、毎年の総会・学術大会の参加者も1,500名にのぼる規模になりました。皮膚科関連学会では、日本皮膚科学会、日本臨床皮膚科医会に次ぐ大きな学会になっています。

これまで国内では美容医療はやや特殊な医療とみなされ、国による治療法や使用機器の承認が遅々として進まない状況がありました。最近、厚生労働省は、美容医療にかかわる新しい医療機器や治療法、施術を積極的に認可する方向にシフトしつつあり、おそらくこの傾向は今後ますます顕著になると予想されます。

しかし、現状では、美容医療の多くは医師個人の責任のもとに行われています。海外、なかでも米国ではFDA(食品医薬品局)が早くから認可を与えるシステムが確立しており、日本より進んだ美容医療が行われて

いるため、日本で美容医療に携わる医師は、海外の美容医療に対して強い関心があるのではないのでしょうか。実際に美容皮膚科を標榜して診療に取り組んでいらっしゃる先生方ももちろん、これから始めようとお考えの先生方にとっても、海外の標準化された美容医療を学ぶことは大いに意義があると思います。「美容皮膚科のグローバルスタンダード」というメインテーマには、国内はもちろん海外にも学びを求めていただきたいとの思いを込めました。

世界最大の美容・アンチエイジング医療学会である IMCAS (International Master Course on Aging Science) との共同セッションでは、尾見先生が座長を務めるとかかっています。どのような経緯で IMCAS との共同セッションを企画されたのでしょうか。

尾見 他学会との連携は前理事長である川島眞先生の時代に積極的に展開されてきました。それを一歩進め

たかたちです。

具体的なきっかけは、私が当学会の広報委員長に就任したときに、今回も来日するIMCAS代表の Benjamin Ascher と話をする機会に恵まれたことです。それを機に、将来的に日本国内でIMCASと学術大会を共同開催するならば、まずは前段階としてセッションの共催を実施するのがよいのではないかと考え、試験的に実施することにしました。海外情報にかかわるものとしては、他に韓国における最新美容施術を学ぶセッションもあります。

学術大会開催前日の午後にプレセミナー「美容皮膚科、いろはのい」を開催されるとのことですが、こちらも新しい試みだと思います。

尾見 総会・学術大会には、すでに美容皮膚科診療に取り組んでいらっしゃる先生方、これから美容皮膚科診療を始めようとお考えの先生方など、さまざまな方が参加されます。美容皮膚科の治療法は日進月歩